

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4123051）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2025年01月21日(水) 10:00-17:00 2025年01月22日(金) 10:00-17:00
カテゴリ	事業戦略策定・事業継続計画 25戦略策定・25戦略計画・25企画・25企画評価 詳しく見る
総リチャージャー	0名(0名/名)
講師	菊田 幸生 氏 「株式会社email 代表取締役」 石川 17 部門にて、経営企画・マーケティング、販売までを担当し、業務システムのグローバル展開から先端技術を活用したAIプロジェクトに参画し、JUSISを立ち上げて、現在ビジネスの革新や企業内イノベーション手法を研究、創造内発によるアイデア発想と論理的思考からの創発性と実現性検証をメソッド化し、DXプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営フレームジ（IPGJ）にて公開、出版スタイルの構築推進プログラム（Challenge Case）として、社を自らトップリーダー層へ展開している。
会場	JUSIS 企画室（1F、2階） 1階：既、2階（1名/名/名/名/名） 受講料込み、テキスト込み 【受講権利枚数2枚】
対象	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（日本情報システム協会）
対象	IT部門に新たに転属になった方、新入社員～副社長程度の専任社員 詳しく見る
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
受講ポイント	※IT戦略カゴネット対象のセミナーです。（詳細はポイント）
IT戦略カゴネット	12

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）【Co-lab-po（2 階会議室）施設利用にあたっての取り組み】

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム 1

～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉が日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。

従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか。

次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆DX時代の企業と情報システム 2

～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタルイノベーションとデジタルイノベーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタルイノベーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。

そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。